

自然共生サイトの事例紹介

- 社有林もビオトープも持っていない企業がどのようにしたら
生物多様性保全に取り組めるか -

2023年1月26日

シヤチハタ株式会社

CONTENTS

1. 会社概要
2. 環境パートナーシップ・CLUB(EPOC)自然共生分科会
3. あいち生物多様性マッチング
4. 希少種保全活動
5. 外来種駆除活動

1 . 会社概要

社名	シヤチハタ株式会社
創業	1925年1月
代表者	代表取締役社長 舟橋 正剛
本社	愛知県名古屋市西区天塚町4丁目69
主な事業内容	文具印章事業 [印章・筆記具 等]、IT事業 [電子印鑑・EC 等]、 新規事業 [環境対応素材・個別認証システム 等]
資本金	1億円
売上高	単体 163億円
従業員数	単体 356名



環境憲章

シヤチハタはコミュニケーション文化創造企業として、地球環境問題を「企業の社会的責務」と認識し、低炭素社会づくりを目指します。

また、企業活動と環境との共存・調和を基本理念に掲げ、「環境に優しい負荷低減型」の商品・サービスを提供することによって環境保全に貢献します。

環境に配慮した、ロングライフでの高品質の商品開発を進めています。

環境配慮の素材

再生素材

リサイクル性

ロングライフ



商品ラインナップ



Shachihata シヤチハタ



Xstamper Xスタンパー



Shachihata Cloud シヤチハタ クラウド



Artline® アートライン



NAMEPEN ネームペン

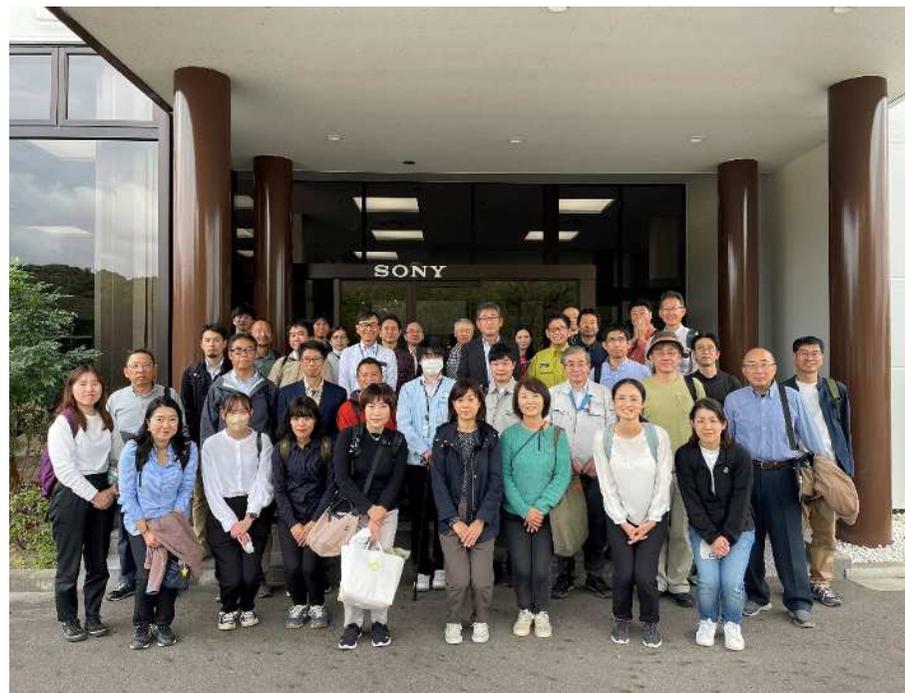
2. 環境パートナーシップ・CLUB (EPOC) 自然共生分科会

環境パートナーシップ・CLUB(EPOC)

【自然共生分科会】

企業の事業活動全般を通じて生態系に与える影響の把握や低減への取組み、生態系から得られる便益の持続可能な利用に関する企業の取組みなどについて、事例調査や支援活動等を行うことで会員企業の今後の取組みをサポートする。

シャチハタは自然共生分科会が設立された2010年より参加しています。



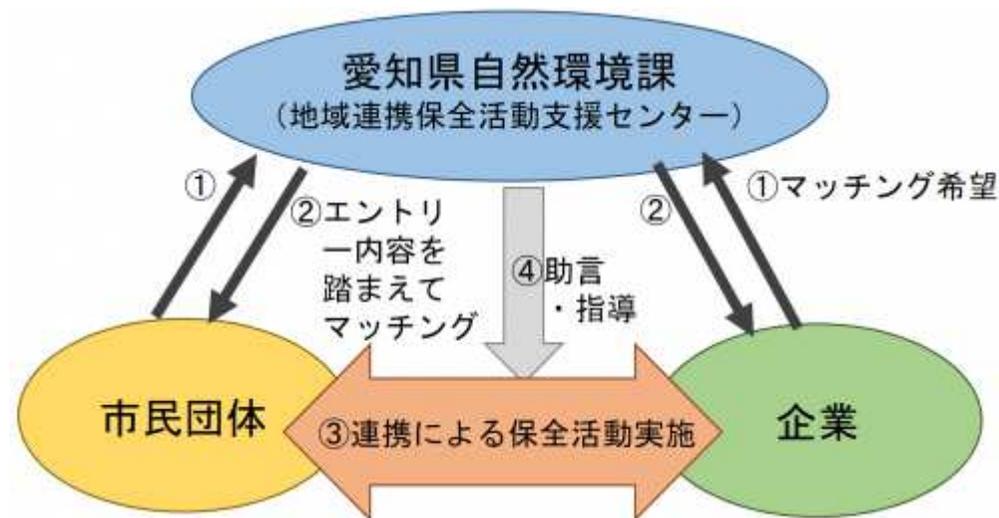
3. あいち生物多様性マッチング

あいち生物多様性マッチング

生物多様性保全に貢献することを模索する事業者と自然保全団体とを県が仲介してマッチングする仕組みです。

事業者は生物多様性の保全に貢献する機会が得られ、自然保全団体は労務や物品を始めとした活動に必要な支援が得られるなど、双方にメリットのあるマッチングを行います。

シャチハタは2018年にエントリーし、愛知県稲沢市のNPO「ロングヒルネット」と連携して「ビオトープながおか」の保全活動を実施することとなりました。



4. 希少種保全活動



絶滅危惧種(ミナミメダカ)の保護



2019年度より愛知県稲沢市のNPOロングヒルネットと共同で
ビオトープに生息する絶滅危惧種ミナミメダカの保護をおこなっています。

「ビオトープながおか」

目的：地域の憩いの場を創出することに加え、自然豊かな稲沢市長岡地区の
多様な生き物が生息できる空間を創造する

開園：2011年4月20日

水源：木曽川用水海部幹線水路の馬飼東分水口から取水する農業用水を
利用して、ビオトープながおか地点にて取水枡を設けてポンプにより
池へ導水しています。



サイトの基礎情報



1. サイトの基礎情報 (区域図)

自然共生サイト認定申請書 様式2



1. サイトの基礎情報 (全体写真)

自然共生サイト認定申請書 様式2



- 写真番号 :
- 撮影日又は撮影年月 : 2020年4月

2. サイトの概要

自然共生サイト認定申請書 様式2

管理目的	地域住民の憩いや環境教育、レクリエーションの場として、また地域の生物多様性保全に貢献することを目的。
サイト概要	「ビオトープながおか」は、地域のいこいの場を創出することに加え、自然豊かな長岡地区の多様な生き物が生息できる空間を創造することを目的に、農林水産省の補助事業である経営体育成基盤整備事業により、愛知県が整備したもの。 魚の棲み家として池内に設置した木製沈床は愛知県産の間伐材を用いるなど、資源の有効活用に努めた。また、あずまや、パーゴラには愛知産のひのきを用いるなど愛知県産木材の利用にも積極的に取り組んでいる。
土地利用の変遷	元々、水田だった場所を整備し、在来種の生息地を維持するために2011年にビオトープを設置
サイト周辺の環境	愛知県稲沢市の田園地域に位置する。申請サイト周辺は、田園や畑が広がっている。 水源は木曽川用水海部幹線水路の馬飼東分水工から取水する農業用水（循環利用）を利用して馬飼東分水工から既設用水路（U字溝）を流下する農業用水をビオトープながおか地点にて取水枡を設けて取水ポンプ（直径80 mm）により、せせらぎ水路へ揚水し、池へ導水している。
アピールポイント	ミナミメダカは愛知県レッドリストVUに指定されており、その保全に貢献している。地域の方々との交流を重視しており、アオミドロ除去や草刈りの維持管理等日常的な管理には地域の企業にも参加していただいている。また年に1回観察会を実施し(8月)、周辺地域の園児、小学生、保護者の環境学習の場としても活用している。
課題	4

サイトの生物多様性の様子 価値(4) Shachihata

3. サイトの生物多様性の様子

自然共生サイト認定申請書 様式2

価値(4) 生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

田畑の中に人工的に造成されたピオトープで、地域住民の憩いの場として、人の利用や要求される機能を考慮してゾーニングを行っている。また地域在来種である高木・低木の植生に合わせて草木類を選定しており、四季折々の植物を楽しむようにしている。多様な鳥類、昆虫類の飛来が確認されている。

【文化的サービス】

年に1回観察会(いきもの調べ)を実施し(8月)、周辺地域の小学校の環境学習の場として活用している。

【確認された主な動植物】

以下の通り、希少種が確認されている。
ミナミメダカ(学名: *Oryzias latipes*、成体)
ゼゼラ(学名: *Biwia zezera*、成体)
マシジミ(学名: *Corbicula leana*、成体)

<添付資料>

区域の生物多様性の概況に関する資料



写真番号: 写真の撮影年月: 2019年8月3日
写真の説明: 第7回 生きものしらべ

当該価値に該当する写真を添付

写真番号: 写真の撮影年月:
写真の説明:

サイトの生物多様性の様子 価値(4) Shachihata



サイトの生物多様性の様子 価値(4) Shachihata

特定外来種 カダヤシ

ピオトープながおか 2023 08 06

7月23日(土) 上池 3匹 下池1匹 メス 殺処分

由来 ・ 蚊の幼虫《ボウフラ》を捕食する(蚊絶やしする)ことが、由来となっている。

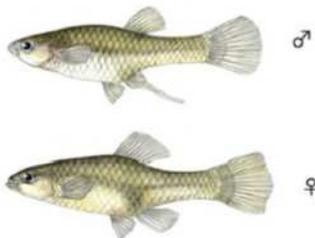
日本に分布するカダヤシは、1913年に北アメリカから、また1916年に台湾経由で持ちこまれました。

メダカとカダヤシの相違点 ・ メダカは卵生で卵を産むのに対してカダヤシは卵胎生、体内で卵を孵化させて子どもを産みます。

カダヤシは尾びれ短く丸っこく尻びれが体に沿うように長く

特にオスはしっかりとしたヒレを持っています。

《カダヤシ》



《メダカ》



ピオトープながおか ・ 2022年&2023年に生物多様性の保全《アオミドロ抑制対策》として堆積物《ヘドロ》除去

2022年 上池 17種+10種 2023年 下池 15種

どこから ・ 木曾川水系から入り込んだか?

捕まえた ・ メダカを捕まえたつもりが、カダヤシだったら、その場で元の水源へ戻すことは許されますが、別の場所へ放すのは絶対にいけません。残酷ですが、必ず

殺処分する。販売したり、放流したり、飼育することはできません。懲役3

年以下もしくは300万円以下の罰金の厳しい罰則が科せられます。

最後に現在ペットを飼育している人は、責任を持って最後までお世話してください!!

《7月23日(土) 上池 3匹 下池1匹 メス 殺処分したカダヤシ》



3. サイトの生物多様性の様子

自然共生サイト認定申請書 様式2

価値(6) 希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

木曾川から導水して池が2つ存在し、池の周辺は開けた自然環境である。

【確認された希少種】

2022年4月に実施した調査において、以下の通り、希少種が確認されている。

- ・ミナミメダカ(学名：Oryzias latipes、成体、環境省レッドリスト絶滅危惧II類)
- ・ゼゼラ(学名：Biwia zezera、成体、環境省レッドリスト絶滅危惧II類)
- ・マシジミ(学名：Corbicula leana、成体、環境省レッドリスト絶滅危惧II類)

ミナミメダカは2011年から、ゼゼラは2022年から、マシジミは2016年から毎年継続して確認されている

<添付資料>

確認位置図



写真番号： 写真の撮影年月：2022年4月
写真の説明：ミナミメダカ



写真番号： 写真の撮影年月：2022年4月
写真の説明：ゼゼラ

サイトの生物多様性の様子 価値(6) Shachihata

2023年4月16日時点での「ビオトープながおか・下池」に生息する生物は
魚類4種、昆虫6種、貝類3種、甲殻類1種、両生類1種の計15種です。

魚類

タモロコ

ゼゼラ 環境省：絶滅危惧 類、愛知県：準絶滅危惧種

ミナミメダカ 環境省：絶滅危惧 類愛知県：絶滅危惧 類

カダヤシ外来種



ゼゼラ



ミナミメダカ



カダヤシ（外来種）※要駆除

サイトの生物多様性の様子 価値(6) Shachihata

2023年4月16日時点での「ビオトープながおか・下池」に生息する生物は魚類4種、昆虫6種、貝類3種、甲殻類1種、両生類1種の計15種です。

貝類

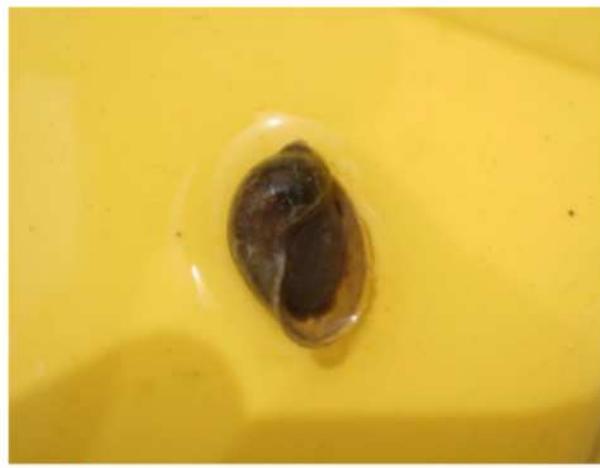
マシジミ 環境省：絶滅危惧 類

モノアラガイ 環境省：準絶滅危惧種 愛知県：準絶滅危惧種

オオタニシ 環境省：準絶滅危惧種



マシジミ



モノアラガイ



オオタニシ

4. サイトの管理計画・モニタリング計画

自然共生サイト認定申請書 様式2

管理計画の内容	モニタリング計画の内容
<p>【管理計画の内容】</p> <p>【ミナミメダカ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上池および下池において、4月～9月は毎週、10月～3月は隔週で注水管理を行い、ミナミメダカが生育できる環境を維持する。 ・草地において、週に1回草刈りを行い、良好な草地環境の維持を図る。 ・年に1回池干しを行い、池底に溜まったヘドロ除去を行う。 <p>【ゼゼラ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上池および下池において、4月～9月は毎週、10月～3月は隔週で注水管理を行い、ゼゼラが生育できる環境を維持する。 ・草地において、週に1回草刈りを行い、良好な草地環境の維持を図る。 ・年に1回池干しを行い、池底に溜まったヘドロ除去を行う。 <p>【マシジミ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上池および下池において、4月～9月は毎週、10月～3月は隔週で注水管理を行い、マシジミが生育できる環境を維持する。 ・草地において、週に1回草刈りを行い、良好な草地環境の維持を図る。 ・年に1回池干しを行い、池底に溜まったヘドロ除去を行う。 <p>※池干しの際に外来種が確認された場合は駆除を行う。</p> <p><参考資料> 添付資料3 管理計画書</p>	<p>【モニタリング対象】</p> <p>ミナミメダカ、ゼゼラ、マシジミ</p> <p>【モニタリング場所】</p> <p>上池および下池</p> <p>【モニタリング手法】</p> <p>成体数を数える</p> <p>【実施時期及び頻度】</p> <p>4月頃 年に1回</p> <p>【実施体制】</p> <p>尾張西部生態系ネットワーク、シヤチハタとの共同実施</p> <p><参考資料> 添付資料4 モニタリング計画書</p>

サイトの管理計画・モニタリング



自然共生サイト認定

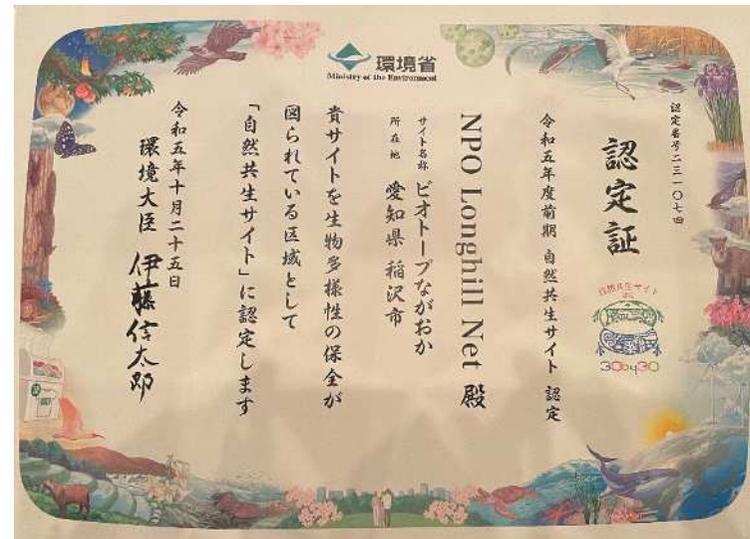
環境省の2023年度前期「自然共生サイト」に選ばれました。

「自然共生サイト」とは、

「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を
国が認定する区域のことです。

認定区域は、保護地域との重複を除き、

「OECM」として国際データベースに登録されます。



稲沢市の広報12月号に掲載されました！



外国語版はこちら
Foreign language
Lingua estrangeira

Pick Up 特集 財政公表 P 2~5
介護保険事業計画・高齢者福祉計画(案)パブリックコメント募集 P 6
年末年始の休庁・休館日程 P 7



「ビオトープながおか」が環境省の 自然共生サイトに認定されました！

岡都市整備課 ☎32-1372

都市公園「ビオトープながおか」(祖父江町馬飼)は、NPO 団体ロングヒルネットが清掃活動をはじめ池の管理を行っており、絶滅危惧種のミナミメダカなどが生息する池の保全活動や、希少な生物の観察会の実施など環境教育の場としても活用されています。



これらの生物多様性保全活動が認められ、環境省の自然共生サイトとして令和5年10月25日に認定されました。

▲都市公園「ビオトープながおか」
(祖父江町馬飼)

—30by30目標達成に向けて—

2021年のG7サミットで約束された30by30目標は、生物多様性の損失を止め、人と自然の結びつきを取り戻すため、2030年までに国土の30%以上を自然環境エリアとして保全しようとするものです。



目標達成のため、環境省で認定された自然共生サイトは、OECM(保護地域以外で生物多様性保全に資する地域)の国際データベースに登録され、保全対象の30%として組み込まれます。

「自然共生サイト」とは、「民間の取り組み等によって、生物多様性の保全が図られている区域」を国が認定する区域のことです。市内では、豊田合成株式会社平和町工場ビオトープも今回認定されました。

今後の課題：外来種のリスクを最小限に抑え生物多様性の価値を向上させる

■申請者名：NPO Longhill Net

■サイト名：ビオトープながおか

令和5年度 自然共生サイト 審査委員会における審査結果	<u>審査委員会結果</u> として「 <u>認定</u> 」に相当する
「 <u>認定</u> 」に相当する にあたっての主な意見	<ul style="list-style-type: none">●地元のNPOが人工ビオトープを希少種が生息できる環境に維持管理しており、行政とNPO団体との連携の優良事例である。●今後、企業や市民団体等と連携したモニタリング等を計画しており、外来種のリスク等を最小限に抑え生物多様性の価値を向上させる取り組みを期待する。●地元の小学校など学校関係者との連携も始まっており、環境学習の場としての価値も高めていってほしい。●水草や水生昆虫などに目を向けた活動も検討されるとよい。

5. 外来種駆除活動



外来種(オオキンケイギク)の駆除

環境パートナーシップ・CLUB(EPOC)でご紹介いただき、2021年度より愛知県江南市、大口町、リンナイ、東海理化、トヨタ紡織と共同で特定外来生物オオキンケイギクの駆除活動をおこなっています。

「オオキンケイギク」

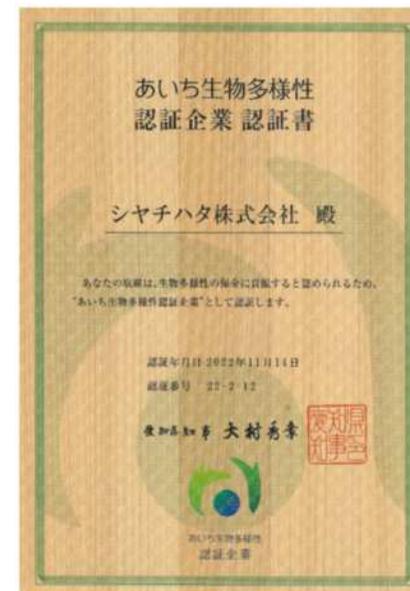
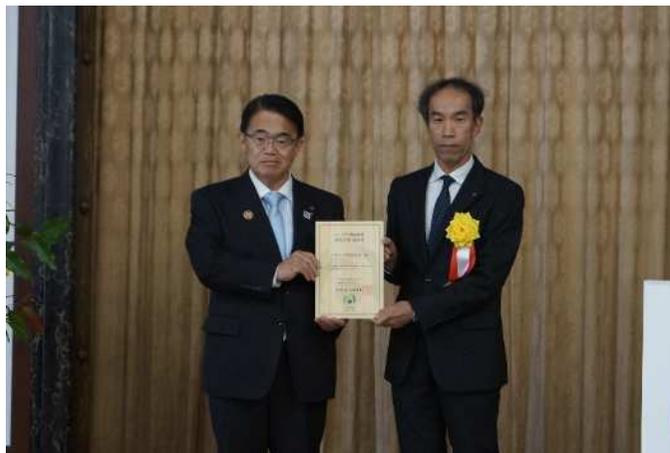
明治時代に園芸・鑑賞用にアメリカから輸入され始め、戦後は特に緑化工事に用いられてきました。

しかし繁殖力が強すぎて、日本在来種のカワラナデシコなどの生える場所に排他的・独占的に生育することが問題となり、2005年に特定外来生物に指定され、移動・輸入・栽培が禁止になりました。



2022年 あいち生物多様性企業認証制度（愛知県）に基づく、
「あいち生物多様性認証企業」に認証されました。

あいち生物多様性企業認証制度は、生物多様性保全の施策の方向性を示す戦略（「あいち生物多様性戦略2020」および「あいち生物多様性戦略2030」）に基づき、企業の保全活動への参画を促すインセンティブとして、優良な取り組みをしている企業を愛知県が認証する制度です。



- 社有林やビオトープを持っていない企業でも生物多様性保全に取り組むことはできます。
- まずは生物多様性に関する情報収集をして、市民団体(自然保全団体)と連携をすること。そのためには環境省や愛知県のマッチングが有効です。
- 市民団体は高齢化や人不足で困っています。企業は人や資金を提供をすることで、市民団体と連携して保全活動を進めることができます。
- 今後とも企業と市民団体の連携が進み、30 by 30目標の達成に向けて、地域循環共生圏が構築されていくことを望んでいます。

今後とも生物多様性保全への取組みをさらに進め、
地域循環共生圏構築に貢献していきます。



X

